会　議　録

会 議 名 称	令和元年度　第２回加古川市子どもの読書推進計画（第３次）策定委員会
開 催 日 時	令和元年 10 月 11 日（金）午後 3 時から午後 4 時 10 分まで
開 催 場 所	加古川市役所新館６ 階 １６１会議室
出　席　者	＜委員＞ 森委員長、渡瀬委員、石田委員、米光委員、今津委員、 岡田委員、宮川委員 ＜ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ＞ こども政策課真島課長、幼児保育課中村副課長（宮北課長の代理）、 社会教育・スポーツ振興課福島課長、学校教育課境課長 ＜事務局＞ 中央図書館小浦館長、田中館長（加古川図書館）、成川資料担当係長、 田杭
会 議 次 第	１ 開会 （１）委員長あいさつ ２ 議事 （１）加古川市子どもの読書環境実態調査結果報告について（説明及び意見交換） （２）加古川市子どもの読書環境現状把握並びに課題検討について（説明及び意見交換） ３ 閉会
配 付 資 料	資料１ ・１－１　子どもの読書環境実態調査実施状況 ・１－２　各学校園・施設回答集計表 資料２ ・２－１　子どもの読書環境実態現状把握 ・２－２　学校図書館図書標準　達成率

審議内容	
１　開会	（１）森委員長あいさつ
２　議事	（１）　加古川市子どもの読書環境実態調査結果報告について

（事務局）	「加古川市子どもの読書環境実態調査結果報告」について説明 資料１－１に沿って 市立小学校、養護学校、中学校、子育てプラザ、公民館図書室については、５年前の前回調査と対象数に増減はありません。 しかし、保育園、幼稚園、認定こども園については、この５年間で５４園から６６園に１２園増えております。そのうち、公立の保育園・幼稚園・認定こども園は、２５園から２３園に２園減少しておりますので、法人の園が１４園増加したことになります。 なお、この調査では、法人保育所・認定こども園については、地域型保育事業所と分園は含めておりません。回収率は、前回調査より増えております。 １ページ目 １.保育園・幼稚園・こども園・子育てプラザについて （1）蔵書冊数については、回答のなかった園が増えております。回答のあった園では、蔵書が減っております。 （2）貸出の有無については、貸出をしていない園が増えています。 ２ページ目 （3）読み聞かせ回数については、週 10 回以上の割合が増えています。 （4）読み聞かせの時間については、5 分以上 10 分以内の割合が増えています。 （5）読み聞かせをする人については、保護者以外のボランティア（公民館のボランティアグループ等）の割合が増えています。 ３ページ目 （6）興味を持たせるために実施していることについては、前回同様、「興味や季節に応じた絵本の配置」、「目につきやすく手が届きやすい本棚の設置」、「絵本にちなんだ手遊び」の割合が多いです。 （7）ボランティアの活動内容については、やはり読み聞かせが多いですが、ボランティアが活動していないあるいは無回答も多くあります。 ４ページ目 （8）－①公共図書館との連携では、「実施していない」が増えております。おそらく、公立の保育園・幼稚園・認定こども園は以前からも利用していただいていますが、法人の園にはＰＲも行き届いていないのかと思います。 （8）－②公共図書館との連携で、今後実施希望は、「読み聞かせ等」ですので、ぜひ公共図書館だけでなく、地域の公民館で育成されたボランティアの方にも活動いただけたらと思います。 ５ページ目

	（9） 読書環境を良くするための工夫としては、どの項目も５年前と同様に取り組んでいただいています。 （10） 施設における読書環境の問題点や課題については、「保護者の認識の格差」とされる園が増えています。 ６ページ目 2.小学校・養護学校・公民館図書室について （1）蔵書冊数は、５年前より９６５冊増加しています。 （2）については、５年前は閲覧席数を尋ねていましたが、近年絨毯敷きで椅子のない図書室もありますので、今回は貸出の有無を尋ねています。 （3）年間総貸出冊数、（4）年間総貸出冊数の過去 5 年間の推移については、「減少」との回答が増えました。 ７ページ目 （5）ボランティア活動の有無と活動内容は、どの項目も増えていますが、まだ「活動していない」との回答も６校あります。 （6）子どもにいつ本を読ませているかに回答では、「朝読」が減って「休み時間」が増えています。 （7）－① 読書活動推進のための取組み（既に実施）は、様々な取り組みをしていただいていますが、特に「図書館まつり・読書まつり」が増加しています。 （7）－② 読書活動推進のための取組み（今後実施）は、「おはなし会」のみにとどまらず、「ブックトーク」、「推薦図書の紹介」が増加しています。 ８ページ目 （8）－① 読書活動推進のための公共図書館との連携では、「団体貸出しの利用」が前回同様多く、今後は「選書支援等業務相談」、「ボランティアの育成・派遣」で連携したいとの意見がかなり増えており、このような点からも本来学校司書が必要とされているのではないかと感じます。 ８ページ目から９ページ目 （9）－① 各種団体との連携では、今後実施したい取組として、「家庭読書、親子読書推進」が増加しており、地域の住民については「図書寄贈・寄贈呼びかけ」も増加しています。 １０ページ目 （10） 読書活動を推進していくうえで必要だと思うことでは、今回は「蔵書の充実」よりも「図書室担当職員確保」が上回っています。蔵書はある程度増えたので、今度は人的ニーズが出ています。 （11） 学校図書館の問題点・改善すべき点（管理職意見）でも、同様に

	ほとんどの学校が「学校司書の配置等」をあげています。 （12）－①「図書」の授業の頻度は、前回設問が無かった問です。ほぼ、毎週１回ですが、高学年は朝学習を図書の時間にしたり、月１回や学期に１回したりとの回答もあります。 （12）－②「図書」の授業内容は、低学年では自由読書やおはなし会が多いですが、中学年以上では「調べもの、調べ学習のために本を探す」が大幅に増え、高学年では、１６校が「「国語」の時間として授業を行う」とも回答しています。 １１ページ 3.中学校 （1）図書室の閲覧席数は、前回と大きくは変化ありません。 （2）蔵書冊数は、小学校と同様に増えており、５年前から１，１５３冊増加しています。 （3）と（4）の年間総貸出冊数の過去 5 年間の推移は、「変化はない」との回答ですが、年間１，０００冊未満の貸出冊数の学校が１０校に上ります。 １２ページ （5）読書活動推進のための取組みでは、既に実施しているのは、５年前と同様に「一斉読書等」と「読書感想文コンクール」で、今後実施したいことは「教科学習における図書館の利用」です。 （6）－① 読書活動推進のための公共図書館との連携では、「実施していない」が４校増えて９校となりました。 １３ページから１４ページ （7）各種団体との連携は、前回も今回もどの項目も記載が少なく、あまり連携が取られておらず、今後の連携も進みにくいと感じます。 １４ページ （8） 読書活動を推進していくうえで必要だと思うことや（9） 学校図書館の問題点・改善すべき点は、前回同様、蔵書、読書活動時間、図書室担当職員が多く、改善されていないようです。また、管理職の方からは、施設面の不備もあがっています。 なお、個別の各学校園、施設よりいただいたご回答は、資料１－２に５種類まとめております。

（委員長）	４ページの（８）の公共図書館との連携について連携していないという回答が５８％となっているが、図書館からはどのような働きかけを行っているのか。
（事務局）	公立の保育園、幼稚園、こども園には園長会に参加したり、「図書館活用のご案内」のちらしを送付したりして、団体貸出やおはなし会などのＰＲを行っているが、法人保育園については図書館からの働きかけを行っていない現状です。また、法人の園の連絡会に参加させていただき、働きかけを行っていきたいと考えています。
（委員長）	５ページの（１０）の施設における読書環境の問題点や課題については、「保護者の認識の格差」とした園が増えているということだが、どのようなことか。
（事務局）	この点について幼稚園や保育園の先生方はいかがでしょうか。
（委員）	働いているお母さんが多いので時間が取れないというのと、絵本の貸出を行い、その際に手紙を出し読み聞かせを通じてスキンシップの大切さなども一緒にお伝えしています。熱心な保護者の方もおられるが、しっかりと伝わっていないこともあります。
（委員）	親子で読むのが基本であるが、小中学生の兄弟に任せる保護者がいます。
（委員）	保育園や幼稚園には関係ないが、何十年か図書館のボランティアをしているが、昔と今では全然違う。昔は二人で２０人に読み聞かせしていたが、今は二人で３人の面倒を見ることもあり、親の意識はどうなのかと思うことがある。私は家庭教育が一番だと思うが、今の話を聞いていると時代が変わった、で済むかもしれないが、違うと感じます。親が読んで楽しまないと子どもに伝えられないです。図書館はボランティアを育てています。ボランティアの数も少なくなっているという話を聞いていると、今の状態は悲しいです。
（委員長）	図書館は保護者に対して本の読み聞かせについてアドバイスをする機会があるのでしょうか。
（事務局）	資料２－１の５ページをご覧ください。図書館では、ブックスタートの名称は本来子どもたちに絵本を配布しないといけない事業ですが、加古川市

	は本を手渡す予算がついていないので、商標登録されているブックスタートという名称は使えず、はじめまして絵本事業という名前にしています。乳幼児向けのおすすめの絵本リストを渡しておりまして、公共図書館のご案内をさせていただいている事業をしています。 平成２６年度はリストの配布人数は２，１７３人でしたが、３０年度は１，８８２人となっていて、３００人程減っています。加古川市の０歳から１９歳までの子どもの人口は、平成２６年は５２，３３５人だったのが、平成３０年は４８，７４１人となり３，６００人程減っています。 ４か月児健診に行ったり、図書館だけに限らず各公民館でも読み聞かせの講座やボランティア養成講座も行ったりしていて、これは５年前にはあまり行っていなかったことです。また各公民館に絵本コーナーを設置してもらっていますが、子どもの数が減ったりお母さんで働いている方が増えていたりするのでこのような結果が出たと思われます。 先ほどの図書室の職員の要望についても、特記事項に書かれていたのはボランティアで活動していただける方を募っても、子どもが少し大きくなれば働きに出られるので、若いお母さん方でのボランティア活動が難しくなってきています。図書館でもボランティア養成講座で募っても、メインになられるのはお仕事をリタイヤされた年配の方が中心になっています。
（事務局）	（２） 加古川市子どもの読書環境現状把握並びに課題検討について 「子どもの読書環境現状把握並びに課題検討」について説明 資料２－１では、調査結果を、「加古川市子どもの読書活動推進計画（第２次）」の第２章にのっとり、まとめております。また、環境実態調査では調査していない、公共図書館の現状と成果も盛り込んでおります。 資料２－１に沿って説明 １ページ、基本方針の⑴ 「子どもが本と出会い、親しむ機会の提供と、読書の楽しさを実感できる環境づくり」の現状の成果、課題には、保育園、幼稚園、認定こども園については、この５年間で５４園から６６園に１２園増えております。そのうち、公立の保育園・幼稚園・認定こども園は、２５園から２３園に２園減少し、法人の園が１４園増加したことで、各園の児童書の整備が追い付いていないと受け止めています。 絵本や児童書の貸出については、半分近くの園で貸出が実施されていない現状で、管理の問題があると思われます。 保育園・幼稚園・認定こども園において継続的に絵本の読み聞かせを行っておられて、回数は増加していますが、１回のあたりの時間は少し減少しています。公共図書館との連携については、実施していない園が増加して

	いますが、読み聞かせを中心としたニーズはあります。問題点や課題については、保護者の認識の格差が高い数値となっています。 蔵書冊数については、特に認定こども園がマイナス８４５冊となっております。貸出の実施率は認定こども園の貸出率が増えています。５年前は法人の認定こども園が少なかったのでこのような結果が出たと考えられます。 ３ページ、基本方針の(2)「学校園等における読書習慣の形成と学習支援機能の充実」についての項目は、小中学校の図書資料の充実に努めた結果、蔵書冊数は増え、支援学校は減っていますが、小中学校、公民館図書室ともに５年前と比べて増えています。学校図書館図書標準の冊数の充足率は、小学校は２５パーセント、中学校は４パーセント増えています。 資料２－２に、学校ごとの学校図書館図書標準　達成率をまとめております。なお、学校図書館図書標準というのは、文部科学省がこのクラス数ならこのくらいの蔵書数が必要であるという基準になっていて、計算するとこの表になっています。この表の中の蔵書冊数は、調査票に回答いただいた平成31年３月末現在の蔵書数ですが、クラス数は、令和元年５月１日現在の調査の値で計算しております。 また、養護学校については、現在幼稚部１クラス、小学部９クラス、中学部５クラス、高等部１２クラスで計２７クラスあり、児童・生徒数は６５名です。しかし、図書室は全体で１館のみであり、図書の内容も、小学部用、中学部用と分けておりませんので、文部科学省の学校図書館図書標準のうち、特別支援学校の小学部と中学部の基準を合算して算出しているので、低い数字になっているかもしれません。 ３ページ、小学校の貸出冊数については増加傾向にはなかなかなっていないです。中学校に関しても、変化はないという回答は多いけれども、実際には貸出冊数は減りつつある傾向になっています。貸出冊数が増えていないから計画の目的が達成できていないとみるのが正しいのか、この推進計画の取り組みがあるからこれ以上に減っていないとみるのか、何もしなかったらもっと減っていたのか、わからないところです。 小学校におけるボランティアの活動としまして、図書の装丁・修理・学校図書館内の掲示物等の環境整備、読み聞かせなどをしている学校は増加しているけれども、まだ活動していない学校もあります。小学校において、図書館まつり・読書まつりを開催した図書館が増えています。小・中学校ともに、今後公共図書館との連携強化として、選書支援等の業務相談やボランティアの育成・派遣が求められています。

	小・中学校ともに、蔵書の充実や図書購入予算確保よりも、「図書室担当職員確保（学校司書の配置）」の要望が高まっています。小学校の「図書」の時間については、学年が上がるにつれて、自由読書やおはなし会の割合が減少し、調べ学習や「国語」の授業を行うようになっています。 ４ページ、基本方針の(3)「地域社会の支えとボランティア育成の拡大」の項目の、関係機関の連携・協力による地域社会全体での取組の推進については、５年前と比べ、「中学校区連携ユニット１２」において、全体として既に実施している事業が減少しています。今後の取組として、読み聞かせやブックトークよりも家庭読書、親子読書推進が必要と考えられています。 今回の調査には入っていませんが、公共図書館の除籍本、市民から寄せられた寄贈本の児童書を各機関に配布する「児童書配布事業」を２年に１度実施しています。この５年間で小学校・幼稚園、保育園、こども園が持って帰る冊数よりも、公民館や児童クラブが持って帰られる冊数が増加しています。おそらくある程度学校や園の方では蔵書が充実してきて、児童クラブは増えてきているが本を置く予算がない状況で指導員の方が苦労されているようで、少しでも本を増やしていきたいという要望と合ったのではないかと思っています。第１次の計画の時に児童クラブが学校の図書室を利用できないかということを模索したこともありましたが、施設の管理上児童クラブの子ども達が図書室まで行くのが難しいという話がでて、第２次の計画の時には消えています。児童クラブの部屋に本があることで、子どもがあらゆる機会に本と出合うことができるようになったという点では、少しはお役に立つことができたと思っています。 ５ページ、子どもの読書活動の推進に関わる人材の育成については、公共図書館や公民館等で、読み聞かせやストーリーテリングボランティアの養成講座及びスキルアップ講座を実施し、これにより、読書活動促進の担い手となる多くのボランティアを育成いたしました。またその方たちが認定こども園・幼稚園・保育所、公共図書館等のおはなし会で活動することができました。５年前と比べて読み聞かせの養成講座については、公民館での回数が増えていて、図書館での回数や人数も増えています。 ５ページ、基本方針の(4)「子どもの読書活動に関する啓発と理解の促進」については、４か月児健診時に、乳幼児向けのおすすめ絵本リスト「はじめまして絵本」を配布していることと、「家読（うちどく）」を推進するための啓発ちらしを配付したり、スタンプラリーを実施し

	たりしました。家読の啓発ちらしの配布は５年前にはしていなかった事業で、令和元年度の実績としては、３２，５００枚を市内で配布しました。
（委員）	小・中学校ともに、蔵書の充実や図書購入予算確保よりも、図書室担当職員確保の要望が高まっているが、この要望はどこにもっていけばいいのでしょうか。前の会議の時も前向きに検討しますと言われたけれども、その後どうなったのでしょうか。明石市や神戸市は学校司書の募集をしていたが、加古川市はしないのかと思っていました。学校の先生もたくさん思われているのに、この要望を具体的にどこに持っていけばいいのか、署名活動したらなんとかなるのか、どうすればいいのか知りたいです。
（ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ）	第２次の計画がたったときから、毎年財政や企画の担当に来年度の予算要求をする計画を立てて出しているが、その当時から司書教諭というのはもちろん各学校に一人ずついて、小中学校に百何十人司書教諭の免許を持っている先生はいます。ただし、専科ではなく学級担任での配置なので、司書教諭は１２学級以上ある学校に免許を持った教諭を一人はあてることとなっており、それを補佐する形で学校司書をおくように努めなさいとしています。市としては臨時職員として配置できないかと毎年相談しています。学校からのニーズもありますし、先進的に取り組んでいる様子や効果であるとかを踏まえて、毎年、こういう計画でどうか、ボランティアの方たちをコーディネートする人を置いて巡回する案などを提示するなど、これからも上げ続ける予定です。けれども今現在力及ばずということで、加古川市は募集できていない現状です。
（委員）	市民ができることはないでしょうか。
（ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ）	子どもたちは読書が好きなので、部屋と本はあるけど、管理したり提供したり、情報をうまく伝えたりするようなことが学校の先生たちができないという現状を理解してもらいながらも、少しずつでも実現していきたいと考えています。
（委員長）	要望書が直接施策につながらないかもしれないが、他の自治体で学校司書

	の配置が進んでいる自治体というのは市民の活動が活発で、毎年予算時期の前は必ず要望書を市長や議員あてに積極的に出しています。だから市民は学校司書をこれだけ望んでいるのを強くアピールしているのを何かの形で出した方がいいのではないでしょうか。そういう気持ちを持っているというのは声だけでなく署名にもあらわしていったらと思います。 資料料２－２で気になった学校図書館図書標準に関しても、専任の学校図書館司書の方がいない結果なのかと考えています。特に低い数字のところが４９パーセント、平岡北小学校となっています。
（委員）	図書館教育の担当者が古い本を廃棄したところで、今は新しい本を増やしている段階で、図書室の棚も空いている状況です。予算も決まっていて、子どもたちが好きな本はカラフルで、写真がいっぱい入っていて、大きな形の本だったりするので、そういう本は１冊がとても高いです。子どもたちの人気の本をそろえるのは、今すぐにというのは難しい現状があります。しかし、貸出冊数は年々増えています。本の冊数が多くなくても、子どもたちの人気の本があれば、本を借りに来る子どもが多いです。４９パーセントという数字にはこんな内情があります。
（委員長）	４９パーセントというのは特殊かもしれないが、６０、７０パーセントというのも目立ちます。これは文部科学省の標準であるが、全国学校図書館協議会の学校図書館メディア標準で、蔵書の最低の冊数を出せる計算式があります。それも合わせて出しておくといいと思います。こういう現状であると学校図書館それぞれにこの数値の表を配っておきたいです。
（事務局）	今回集計してみて、文部科学省の基準で疑問に思うところは、５年前と比べて、特別支援学級が各学校増えてきていると思います。けれども学校図書館図書標準というのは、生徒数ではなくて、クラス数で計算することになっているので、特別支援学級が多い学校の方がこの図書標準よりも低くなってしまうことが出てきます。志方の学校が百パーセントを超えているというのは、本が増えているというよりも、児童が減っている現状で高い数値になっているのかと思います。
（委員）	こういう数値が出て、こういうことなのだという事実がはっきりわかり、図書館を充実していかないといけないという目標にはなります。

	こういうことを知ることは、学校の意識向上につながるし、実態調査も、学校現場は忙しいので、いろいろな調査を吟味する時間はないが、なにかの折に活用することは大事なことではないのかと思います。
（委員長）	議事は以上です。その他皆様より情報交換及び全般についてご意見等ありましたら、お願いします。
3　閉会 （委員長）	あいさつ